

氏名(本籍)	古宮 望美				
学位の種類	博士(工学)				
学位記番号	博甲第 10007 号				
学位授与年月日	令和 3 年 3 月 25 日				
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当				
審査学術院	理工情報生命学術院				
学位論文題目	カジノ導入に対する日本人の認知モデル探索に関する研究				
主査	筑波大学	教授	博士(工学)	津田	和彦
副査	筑波大学	教授	博士(工学)	吉田	健一
副査	筑波大学	准教授	博士(システムズ・マネジメント)	木野	泰伸
副査	筑波大学	助教	博士(理学)	高安	亮紀
副査	中央大学	教授	博士(工学)	中村	潤

論文の要旨

2016年12月、日本において「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律」が成立し、日本においてもカジノを合法化することが決定された。しかし、報道機関などが行う世論調査などの結果をみると、日本においてはカジノに対する不信感を抱いている人が多い。

一方で日本には、競輪・競馬・オートレース・競艇といった公営競技が多く存在している。加えて、パチンコ店も日本中のあらゆる場所に立ち並んでいる。このように、日本は多くのギャンブル産業が存在するにも関わらず、カジノ誘致に対してのみ反対の声が上がるのか、実際のところ日本人がカジノに対してどういった感情を抱いているのかについては明らかにされていない。

このような背景の中、本論文では、カジノゲーミングへの参加経験が少ない日本人がカジノに対して抱いている認識を明らかにすることを目的に取り組んだものである。

まず仮想的に構築したカジノの評価を問うアンケート調査を実施し、仮想カジノの評価や、評価の背景に潜む人々のカジノに対する認識を明らかにしている。具体的には、被験者のカジノに対する知識や経験と評価の関係、カジノをよく知らない日本人に対するカジノ報道の影響、カジノの評価に影響を与える要因などを明らかにしている。その上で、これらが正しいかを検証するため、被験者をギャンブル肯定派とギャンブル非肯定派に分け分析している。その結果、被験者自身の持つ知識量がカジノに対する賛否に大きく影響を与えていることや、カジノのリゾート性を前面に押し出した広告・宣伝が不信感といった認識を増幅させていることを明らかにしている。

本論文は、7章で構成される。第1章では、本論文で取り上げる研究の背景と目的を述べ、本研究の位置付けを示している。第2章では、カジノ産業に関する先行研究と共に、日本におけるカジノ及びギャンブル産業に対する意識調査について探索している。さらには、人々の異質なものに対するリスク認知についてまとめることで、本研究を実施する意義を主張している。第3章

では、コンジョイントカードを用いた分析を実施し、カジノに対する知識や経験と評価の関係を明らかにしている。第4章では、報道やそこから見聞きする「ことば」とカジノ評価への影響について説いている。第5章では仮想条件下でのカジノ導入に影響を及ぼす要因分析について記している。第6章では、第3章から第5章の結果を踏まえてカジノに対する日本人の認識の探索と検証を実施している。最後に第7章では、結論として本研究の成果をまとめると共に、今後の取り組みについて述べている。

審 査 の 要 旨

【批評】

2016年12月の「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律」の成立に続き、2018年にはカジノ施設整備の実現に取り組むための法律である「特定複合観光施設区域整備法」が成立し、日本においてはカジノの実現に向け、法整備は着々と進んでいる。

けれども、日本においてカジノに対する世論には厳しい意見が多いという現実がある。このような背景の中、本研究は、カジノに対する評価を左右する要因を解明すると共に、どのようなカジノならば日本でも許容できるのかを探ることを目的に実施されたものであり、社会のニーズに合致したテーマと言える。

本研究は、まず、仮想的に構築したカジノに対してアンケート調査を実施している。その結果に対してコンジョイント分析を行い、カジノに対する評価に影響を与えているものは、被験者のカジノに対する知識や経験、カジノに対する報道内容、カジノの所在地などであるという仮説を導いている。

さらには、導いた仮説を検証するため、再度アンケート調査を実施、共分散構造分析を実施している。その結果、カジノに対する知識量がカジノ賛否に大きく影響を与えていること、カジノのリゾート性を前面に押し出した広告・宣伝がカジノへの不信の認識を増幅させていること、を明らかにしている。

以上、本学位論文が導いた結論は、新規性と有用性を有するものであり、研究の内容は博士(工学)を授与するに十分なものと判断する。

【最終試験の結果】

令和3年1月28日、理工情報生命学術院において、学位論文審査委員の全員出席のもと、著者に論文について説明を求め、関連事項につき質疑応答を行った。この結果とシステム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラムにおける達成度評価による結果に基づき、学位論文審査委員全員によって、合格と判定された。

【結論】

上記の学位論文審査ならびに最終試験の結果に基づき、著者は博士(工学)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。